

西中だより

平成27年度 No.8
平成27年 6月22日
須賀川市立西袋中学校
発行責任者 鶴巻 弘士

＃＄＃ 親子奉仕作業ありがとうございました ＃＄＃

○ 早朝からの作業でしたが、多くの保護者と生徒の参加を得て、親子奉仕作業が無事終了しました。お陰様で、校舎の周囲が大変綺麗になりました。これからも学校では、できるだけこの状態を維持できるよう頑張っていきたいと思えます。気のせいでしょうか、南門から校舎を見ると少し輝きを増したような感じがします。綺麗になったプールは活き活きしているように見えます。本当にありがとうございました。生徒達の喜ぶ顔が目に見えます。

○ 「環境は人をつくる」と言われるように、綺麗に整備された校庭やプールで学習する生徒は、知らず知らずの間に気持ち良く落ち着いた気持ちで過ごし、徐々に持てる力量を発揮するようになるものです。それを温かく見守りたいと思えます。



◇◆◇ 牡丹絵画展に多くの生徒が入賞 ◇◆◇

○ 第14回牡丹絵画展に出品した本校生徒の作品が数多く入賞しました。小林恵美奈(3年)さんの作品が最高賞の理事長賞に輝きました。また、新井木乃香(1年)さんが須賀川観光協会賞に、伊藤仮名(3年)さんが佳作にそれぞれ入賞しました。

○ 第5号でお知らせしたように本校の美術部は牡丹園で写生会を実施しました。本物に触れた経験が写真のような素晴らしい作品を完成させたのだと思えます。子どもにはできる限り直接体験の機会を与えたいものです。大人とは違った鋭い感性で牡丹の花の魅力をとらえ、思いきった表現で感じたことを素直に描き表わします。上手い下手ではなく、感動をいかに表現するかが大切なのです。美術部の皆さんの今後の活躍を楽しみにしたいと思います。続いて、入賞者の感想を紹介します。以下、<本人の感想>です。

- ・牡丹の花のグラデーションをがんばりました。透明絵の具を使い、色を使い分けて塗り本物に近づくよう工夫しました。最後の牡丹絵画コンクールで入賞して良かったです。(小林)
- ・素晴らしい賞を頂きとても嬉しいです。指導して下さった小野塚先生、信楽先生に感謝します。絵は線と点を中心に描きました。(新井)
- ・3年間描いてきた牡丹画の中で一番いい牡丹を描くことができました。木や池の水を表現するのが難しかったです。最後に納得のいく牡丹画が描けて本当に良かったです。(伊藤)



理事長賞
小林恵美奈



観光協会賞
新井木乃香



佳作
伊藤仮名

《 校長のつぶやき 》・・・「親子の協同作業に思うこと」・・・

○ 「子どもは親(教師)の言うようには育たず、するように育つ」「子は親の鏡」などと言われます。いつの時代も、子どもは大人の背中を見て成長します。家庭や学校においても同じです。私事で恐縮ですが、子どもの頃に不思議に思っていたことの一つは「母親は、いつ寝ているのかな」ということでした。夜は遅くまで働き、朝は早く起きて仕事をする母親の姿には、いつも頭が下がりました。

○ こう考えますと、親子で行う協同作業は大変重要な意味を持ちます。草刈りの仕方や片づけ方などを親が子と一緒に作業しながら教え伝えるよい機会です。それはちょうど動物の親が子どもに餌の取り方(生き方)を教えることに似ています。このようなことを繰り返して、子どもは自分で自信を持って作業(課題)に取り組めるようになっていくのです。

○ 親が子どもに教える機会と場面が少なくなった今日、親子で行う協同作業はとても大切な教育の場なのだと思えます。先日の親子奉仕作業の様子を見て改めて深く感じました。